

ソフト柑橘類は欧州の不作でトルコに有利か

EUROFRUIT 2023年11月16日

今シーズンの他のヨーロッパ諸国の生産不足はトルコにとって良い兆し

2023/24年度の柑橘類シーズンの前半には、多くの生産国で特にクレメンタインなどの早生品種の収穫量が少なく、また中玉から小玉が多いため、ヨーロッパと北米の市場ではソフト柑橘類の供給が不足する。

この傾向に逆らう唯一の国がトルコで、柑橘類の栽培面積の継続的な拡大により、2023/24年度にはソフト柑橘類の輸出が2桁パーセントで増加すると予想されている。この予測は、世界柑橘類機関がフルーツネット・メディア・インターナショナル社及び開発のための農業研究国際協力センター(CIRAD)と共同で水曜日(15日)にオンラインで開催した世界柑橘類見通しフォーラムで発表された。

トルコ統計庁によると、トルコは2017年から2022年の間に3万8千ヘクタールに柑橘類を新植し、そのうち約1万7千ヘクタールがソフト柑橘類であった。トルコの柑橘類振興グループ「アキブ」のセヴェル・ギュゼルマンズール氏は同フォーラムで、トルコのソフト柑橘類輸出は今シーズン11%増加すると予想されると語った。同氏は、「主な理由が2つあり、第一に面積が増えたこと、第二に去年はトルコだけでなく地中海地域全体で天候が生産に大きな影響を与えたことである。今年はずっと天候に恵まれている」と述べた。

ヨーロッパの他の柑橘類生産国では同じことは言えない。スペインでは、今シーズンのソフト柑橘類生産量は185万3千トンで、2021/22年度の231万7千トン大きく下回っている。バレンシア県とカステリオン県(ともにバレンシア州)ではクレメンタインと早生のマンダリンの収穫量が大幅に減少する一方、晩生のマンダリンの収穫量は昨シーズンと同程度だと予想されている。柑橘類コンサルタントのパコ・ボラス氏によると、これほど生産量が少なかったのは2009/10年度シーズン以来である。

一方、モロッコは2年連続の干ばつに見舞われており、柑橘類の栽培面積はさらに減少している。レ・ドメーヌ・アグリコル社のムスタファ・ゼムザニ氏は、地表水と地下水の不足が今シーズンの柑橘類の品質とサイズの問題を引き起こしていると述べた。

同氏は、「全体として、昨シーズンの47万2千トンに対し、今シーズンは約53万5千トンの柑橘類を輸出できると予想している。今シーズンは果実の内部の成熟は早かったが、外果皮の品質が内部の成熟度に合わなかったため、クレメンタインの輸出を少し遅らせた。一般的には、ナドルコット種がクレメンタインの不足分を補ってくれると考えている」と述べた。

その他の地域として、イスラエルの柑橘類出荷シーズンは、ハマスの軍事衝突により、不確実になっている。イスラエル農産物生産販売協議会のロニ・ナカール氏は、「例年この時期は柑橘類の出荷シーズンの始まりに当たるが、今はすべての活動が中断されている。軍事的脅威が続いているため労働者が果樹園に近づくことができず、果樹園の手入れ、収穫、梱包が実施できない。今のところ戦争が出荷シーズンに及ぼす影響を評価することは不可能であるが、柑橘類産業にかなりのダメージを与えることはすでに明らかである。シーズンのこの段階では、戦争の影響を見積もることはできない。戦争の厳しい現実により、我々の計画を最適に実行することはできない」と説明する。

大西洋の向こう側で、フロリダ州のプロシトラスネットワーク社のキム・フローレス氏は、米国ではソフト柑橘類の需要が引き続き強いと言い、「モロッコ産のマンダリンを、米国の特に東海岸に輸入する良い機会であると考えている。西部の市場ではカリフォルニア州産が供給されているが、ミシシッピ川の東側ではモロッコ産のマンダリンの市場が好調である」と述べた。

執筆者: マウラ・マクスウェル